

進化を続ける国際都心、これからのアーキヒルズ周辺エリア

アーキヒルズ(1986年竣工)は、オフィス、住宅、ホテル、コンサートホールなどからなる民間による日本初の大規模再開発事業です。「職住近接」「都市と自然の共生」「文化発信」を具現化した「ヒルズ」の原点です。開業当初から、オフィスへの外資系企業の集積や、先駆けとなった外国人向け賃貸住宅の提供等により、東京を代表する国際金融センターとなりました。2012年8月には「アーキヒルズ仙石山森タワー(虎ノ門・六本木地区市街地再開発)」が竣工し、アーキヒルズの隣接地では「21・25森ビル建替計画」(2013年竣工予定)、東京都が進める虎ノ門から新橋を結ぶ環状二号線道路の整備工事とともに2014年竣工予定の「環状二号線III街区計画」が現在進行中です。森ビルは、アジアのヘッドクォーターを目指す東京の真の国際都心形成に向けて、当エリアのさらなる発展に貢献してまいります。

タウンマネジメントからエリアマネジメントへ

単体の施設だけではなく、周辺の施設や地域の連携を深めていくことで、タウンマネジメントからエリアマネジメントへと発展させ、エリアの魅力を高めていきます



2011年10月開催した、アーキヒルズ25周年企画「アーキヒルズ音楽週間」では、サントリーホールを中心に、泉ガーデン(泉屋博古館)、ホテルオークラ(大倉集古館)、菊池寛実記念 智美術館といった周辺施設と連携し、エリア全体で音楽の街を演出しました。こうしたエリアマネジメントの取り組みは今後も続けていく予定です。

21・25森ビル建替計画



六本木一丁目駅に直結した交通利便性の高いオフィス複合ビル。地下階には商業ゾーンを設け、新設される歩行者デッキや地下広場によって周辺施設が利用可能。また地上部にはアーキヒルズの桜並木と連続した緑地が広がり、屋上には都心最大級の規模を誇るルーフガーデンを設けるなど、豊かなワークスタイルが実現できるビジネス拠点となります。(2013年完成予定)



環状二号線プロジェクト



立体道路制度を活用し、地下の道路が超高層複合ビルを貫通する、交通インフラと一体となった大規模複合再開発事業。地上52階建となる超高層棟はオフィス、住宅、ホテル、店舗・カンファレンスを擁する複合施設で、東京を代表するシンボルストリートに建つ新たなランドマークになります。(2014年完成予定)

アーキヒルズ 仙石山森タワー



オフィス、住宅、店舗が入る47階の超高層の複合棟(3~24階:住宅、25~47階:事務所)を中心に、敷地南側には地上8階の住宅棟を配置します。建物の周囲には、生物多様性に配慮した緑溢れる空間を整備します。(2012年8月竣工)